

ヒマラヤと瀬戸内から考えるプラネタリーヘルス @みんなく



地球の「健康」と、私たち人間の健康の双方を叶えることは可能だろうか。「プラネタリーヘルス」はこの課題に向き合うための新しいヘルス・プロモーションの理念である。一方で、この壮大なスローガンは、日常の実践につながっているだろうか。本ワークショップでは、自然や生き物と向き合いながら暮らす実践者らをゲストに招く。ヒマラヤ高地の小チベット・ラダックと、瀬戸内海の漁師町での活動事例をもとに、「食」を通じたプラネタリーヘルスの実践について考えたい。

日時：2024年1月16日（火）13時～16時

場所：国立民族学博物館 第3セミナー室

プログラム

13:00 ご挨拶・Introduction

末森 薫（国立民族学博物館）

木村友美（大阪大学大学院人間科学研究科）

13:10 Case 1 ヒマラヤ高地・ラダックの事例

スカルマ・ギルメット（NPO 法人ジュレーラダック代表）

映画「ラダック氷河の羊飼い」クリップ上映

14:00 Case 2 瀬戸内の漁師町から

富永邦彦、富永美保（邦美丸）

（休憩）

15:00 グループディスカッション（参加者全員）※NPOの活動に関わるラダック人の若者たちも参加します

事前申込み不要

使用言語
日本語

※英語・ヒンディもOK

ゲスト

スカルマ・ギルメット

NPO 法人ジュレーラダック代表。

「懐かしい未来」の舞台、ラダックの古都シェイ村出身。伝統的な暮らしを紹介するエコ・ツアーや環境保全活動、文化継承に力をいれた教育活動に取り組んでいる。



富永邦彦、富永美保

岡山県玉野市、胸上漁港「邦美丸」の漁師。海苔養殖を主としながら、サステイナブルな『受注漁』という独自のスタイルを生み出し、数々の受賞歴がある。邦美丸の塩海苔は絶品。



共催

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター、IMPACT プロジェクト「地域の食とプラネタリーヘルス」、NPO ジュレーラダック
問合せ：大阪大学 木村友美 (yumi621@hus.osaka-u.ac.jp)